

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2020.9. VOL.43

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 医学教育分野別認証 合格しました!

日本医学教育評価機構(JACME)による医学部教育の認証評価は、2019年10月に実地調査を終了し、無事、「適合」を受けました。皆様のご協力に心から感謝いたします。

2017年9月に医学教育分野別評価受診委員会を設置し、全教授が分担して自己点検評価報告書を執筆しました。2018年1月に医療人育成推進センターを設立し、2018年9月には医学教育を研究・分析するためInstitutional Research (IR) 部門も設立しました。さらにカリキュラム評価委員会を設置し、外部委員からカリキュラムを評価していただく体制を整えました。

本学の優れた点は、Scientific Writing and Presentation、MD-PhDコース、疼痛科学、コミュニティ・ヘルスケア教育プログラムと東部・西部医療センターの附属病院としての活用と評価されました。

一方、改善点は多すぎて列挙しきれませんが、一部をご紹介します。まず、「診療参加型臨床実習を十分な期間行うべき」という指摘について、本学の実習は診療参加型とは言えないとのことでした。そこで「診療参加型臨床実習とは何か」というテーマでWeb FDを開催しました。「使命や卒業時コンピテンシーの策定についても学生や職員などの教育に関わる主要な構成者が参加すべき」という指摘に対しては、医学部の使命、ポリシー策定にも今後、学生の意見を反映させる必要があります。「行動科学のカリキュラムについて、統一感をもって系統的に構成し、学生が理解しやすいように実践すべき」という指摘に対して、行動科学WGを設置し、関連する講義を体系化し、2021年度シラバスへの記載を目指します。また、学生の態度の評価ができていないため、「小委員会」を設置し、医学生としてアンプロフェッショナルな態度は何かを示します。

今後は、毎年の改善報告提出と7年後の受審を予定しています。教員のみならず、多職種連携が求められています。今後も皆様のご協力をお願い申し上げます。

文責：副医学部長(教育担当) 杉浦 真弓



左：杉浦 真弓 副医学部長 右：道川 誠 医学部長

### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 教 育

### 卒業後の医師臨床研修

名古屋市立大学病院初期臨床研修プログラムには大学病院で2年間の研修を行う「大学病院基盤型研修プログラム」、協力型病院と連携してたすきがけ研修を行う「協力型病院連携研修プログラム」、専門性に富んだ研修を行う「小児科重点研修プログラム」、「産科婦人科重点研修プログラム」の4つがあります。

当院のプログラムでは的確に診断する「知」と患者を助けるべく「技」、そして人を思う「心」を大切にしており、大学病院だからできる「考える医療」と「高度医療技術の習得」、そして連携病院と協力し、多くのcommon diseaseを経験できる点を魅力としています。2年間の臨床研修を通して人として医師としての人間形成を目指し、臨床を大切にする医師の育成に取り組んでいます。

また、東部および西部医療センターと連携し、救急医療、内科・外科などしっかりした基本領域研修を基盤に、特色ある高度医療を習得し、将来の医療・医学を支える医療人を目指します。

### キャリアパス

昨年度からメンター制度を導入し、2年間の研修だけではなく3年目以降の専門研修を見据えて初期研修2年目にはどのような診療科を研修しておくべきか、研修期間はどの程度が妥当かなど具体的に初期研修から専門医研修に向けての方向性を指導しています。



#### 内科専攻研修(事例案)

	2か月	3か月	2か月	2か月	1か月	1か月	1か月	
初期研修	1年次	総合診療科・総合内科	救急部・救急診療	外科	小児科	麻酔科	精神科 産婦人科	
	2年次	消化器内科	循環器内科	呼吸器内科	脳神経内科	※2年次に1か月の地域医療研修を含む		
後期研修	3年次	内分泌・糖尿病	腎臓内科	血液内科	膠原病内科			
	4年次	連携病院		サブスペシャリティ				
	5年次	サブスペシャリティ						内科専門医：卒業6年目に受験

#### 外科専攻研修(事例案)

	2か月	2か月	1か月	1か月	1か月	1か月	1か月	1か月	1か月	
初期研修	1年次	救急部・救急診療	総合内科	消化器内科	呼吸器内科	血液内科	循環器内科	麻酔科	小児科	精神科 産婦人科
	2年次	地域	乳腺外科	心臓血管外科	小児外科	呼吸器外科	消化器外科			
後期研修	3年次	サブスペシャリティ								
	4年次	連携病院								
	5年次	連携病院				サブスペシャリティ				

初期研修1年次に必修を可能な限り取得。2年次から外科を広くローテーションし、サブスペシャリティを早期に開始し、外科専門医を最短で取得することを目指す。

### EPOC2

令和2年度から臨床研修制度が変更され、内科、外科、小児科、産科婦人科、精神科、救急、地域医療が必修分野として位置づけられました。また、昨年度まで紙媒体により研修医評価を行っていましたが、今年度からインターネットを用いた評価システム(EPOC2)を導入いたしました。

文責：総合研修センター

## 教 育

### OSCE評価者制度と認定教員の増加

医師養成課程は大きく変動しており、診療参加型臨床実習の充実がうたわれています。国家資格を持たない医学生が診療に参加し、患者さんに医行為を行うためには、一定レベルの「基本的医学知識」と「臨床技能」を習得している必要があります。医学生の能力と適性を評価し、質を保証するために共用試験が実施されています。主に基本的医学知識を測る多肢選択筆記試験(CBT:Computer Based Testing)と、主に臨床技能・態度を測る客観的臨床能力試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination)が行われています。



OSCEは医療面接、身体所見のとり方などの能力を評価する試験ですが、大学教員のほか、外部評価者(他学の教員など)が評価に加わることで、試験の公平性、客観性が担保されています。外部評価者となるためには、OSCEでいずれかのステーション(試験の対象とする分野)を経験した教員が、評価者講習会を受講することで評価者としての水準を満たすことが必要となります。講習会ではOSCEにおける標準化された評価方法について、体験型研修を通して学び、認定を受けます。

本学のOSCE評価者の有資格者は、2005年の開始時には11名、2010年には55名、2020年には92名と増加してきました。他大学の診療参加型臨床実習前の医学生の評価に参加、貢献しています。

卒業前の客観的臨床能力試験(Post-CC OSCE)でも、認定評価者制度が開始されており今後はこちらの資格を持つ教員も増加させていく予定です。

文責：OSCE実施責任者 安井 孝周

## 研 究

### 科研費獲得状況について

郡学長による科研費セミナー・平成28年度から開始した学内ピアレビュー効果の現れでしょうか、科研費採択率が年々好調です。昨年度に引き続き、基盤研究(A)が1件採択され、研究代表者：岩田欧介先生は大変喜んでいらっしゃいます(岩田先生の記事はP4「時の人」をご覧ください)。また、今年度も若手研究の採択率が素晴らしく、将来的に基盤研究(C)・基盤研究(B)へと発展していくことを願っています(若手採択者の紹介はP4「若手期待の星」をご覧ください)。このように、ピアレビューとしてご協力いただいた先生方のお力添えもあり、医学研究科の科研費獲得は盛り上がりを見せています!お金を管理する側としては、ルールに沿って適正な執行がされているか、1件1件、伝票チェックに日々励んでいます。

皆さんがこの記事を読んでいる頃、令和3年度科研費公募に向けた学内ピアレビューを実施中です。初めて科研費に応募する、基盤研究(C)採択を目指しているという皆さんは、分野内ピアレビューを実施した上で、ぜひ他分野ピアレビューにエントリーしてください。ピアレビューは他分野の先生から意見をいただける貴重な機会です。よりよい申請書を作り上げるためにも、いつもと違う視点からの指摘は刺激となるはずです。この絶好の機会を逃さないようにしてください。皆さまからのご応募、お待ちしております!

文責：教育研究課  
学術研究推進係

■医学研究科 科研費 採択実績

採択年度	平成30年度			令和元年度			令和2年度		
	応募	採択	%	応募	採択	%	応募	採択	%
新学術領域研究(公募)	7件	0件	0%	10件	3件	30%	5件	1件	20%
基盤研究(S)	0件	0件	0%	0件	0件	0%	1件	1件	100%
基盤研究(A)	1件	0件	0%	2件	1件	50%	2件	1件	50%
基盤研究(B)	12件	2件	17%	22件	6件	27%	26件	11件	42%
基盤研究(C)	146件	44件	30%	157件	46件	29%	146件	40件	27%
若手研究	116件	37件	32%	137件	69件	50%	123件	57件	46%
挑戦的研究(開拓)	1件	0件	0%	1件	0件	0%	2件	0件	0%
挑戦的研究(萌芽)	25件	2件	8%	29件	3件	10%	23件	3件	13%
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))	2件	1件	50%	1件	1件	100%	0件	0件	0%
	310件	86件	28%	359件	129件	36%	328件	114件	35%

## 研究者紹介

### 臨床感染制御学— 中村 敦 教授

第一波が収束したかにもえた新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) は、活動の規制や自粛が段階的に緩和されるにつれて感染者が再び増加し、危惧していた通り秋冬を待つことなく第二波を迎えてしまいました。

SARS-CoV-2は厄介なウイルスであり、無症候感染者や発症前の比較的長い潜伏期間の活動により周囲に感染が広がる可能性があります。発熱や倦怠感など非特異的な臨床症状の頻度が高く患者の見極めが難しいため、これらの症状を呈する患者のすべてにPCR検査を実施したいとする現場の要求と実行可能な検査体制との乖離がしばしばトラブルを生じてきました。

PCR検査について幾つかの論文をまとめた報告では、COVID-19発症4日前、1日前、発症当日の陽性率はそれぞれ0%、33%、62%で、発症3日後の80%をピークに以後低下するため、PCR検査のみから感染の有無を判断するのは効率的ではないとしています。COVID-19に限りませんが、検査の結果のみに頼らず臨床経過や他の検査結果などから総合的に判断する姿勢が必要です。

COVID-19を疑う患者のすべてにCOVID-19を想定した検査の実施や感染防御対策をとることは現実的に無理があります。ゼロリスクを追求すれば医療の提供を制限せざるを得ず、それが医療崩壊へとつながってゆきます。第2波を迎えたいま、限りある医療資源や医療体制、検査や治療の限界を認識しつつ、状況に応じて実行可能な最善の医療をめざす柔軟な対応が求められます。また、そのような医療に対する社会の理解が得られることを切に希望しています。(8月1日寄稿)



中村 敦 教授

## 研究者紹介

### 厚生労働省健康局がん・疾病対策課— 成田 朋子 課長補佐

2019年4月に厚生労働省健康局がん・疾病対策課へ人事交流として入省しました。当課では全国の大学病院から様々な専門性を持つ人事交流の医師が1-2年程度で引き継ぎながら、がん対策推進基本計画に掲げた施策に取り組んでいます。臨床現場の経験を活かしつつ、臨床では経験できない事務や患者団体・有識者・企業との意見交換、国会業務などを行っています。

2020年1月から、新型コロナウイルス感染症の流行とともに、厚生労働省の業務は変化していきました。同局の結核感染症課を中心に、事務官や医系技官が各課室・省庁から集結されて、新型コロナウイルス感染症対策本部が設置され、この対策本部の中に複数の課題別の対策班が設置されました。当初は日々手探りの業務が続き、昼夜を問わず人の声が飛び交い、部屋の明かりが消えることはありませんでした。

一方、対策本部に集結されない技官の業務も大きく変わりました。臨時で対策本部の補助をしながら、現在の施策の取組をコロナ禍において最適化する必要がありました。

私自身は、後者の立場ではありますが、新型コロナウイルス感染症患者の対応をする機会や、コロナ禍におけるがん患者の対応マニュアル等の作成に関わる機会もありました。これらの経験は、様々な立場の同僚や各学会の有識者、自治体や医療関係者など多くの協力者があってこそその経験であると身にしみて感じています。今後は自分の立場が変わっても、何か貢献ができるよう精進したいと思います。

文責：厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 / (併) 難病対策課移植医療対策推進室 血液・腫瘍内科学 成田 朋子



成田 朋子 課長補佐

## 研究者紹介

### 新生児・小児医学 — 岩田 欧介 准教授

今回、NICU入院児の発達を、お母さんの録音音声で伸ばすことができるかを検証する臨床研究に対して、科学研究費助成事業の支援を受けることになりました。早産児を産んだお母さんは、人工呼吸器につながれた小さく弱いわが子に対峙し、予定より早く産んでしまったことに対する自責の念に苛まれます。早産児に対して、NICU面会時の限られた声掛けだけでなく、録音編集したお母さんの音声を常時間かせることで、言語発達の改善だけでなく、母児のつながりをより強くできないか?という切実な疑問と願望に解を与える取り組みとなります。早産児の発達を促す試みは世界中で行われていますが、科学的アプローチは驚くほど少なく、比較的大きな規模で言語発達の改善を検証する臨床研究としては、世界初となります。

これまで私のラボでは、脳画像や痛み・ストレスへの反応、概日周期など、臨床現場の日常にあふれる現象を系統的に収集し、分析することで、臨床現場と赤ちゃんのハピネスを直結する、臨床医目線の研究を積み重ねてきました。前年度までは、痛みや言語・認知機能に関する研究で基盤研究(B)の獲得を目指してきましたが、採択を逃してきました。今年度は、学術研究推進係の金さん、URAの服部先生・奥津先生の熱血指導に加え、郡理事長主催の基盤AB勉強会で、計画書を公開指導していただき、“読み手に伝わる申請書”の書き方が初めて明確になりました。これからも新奇性の高い研究計画で研究費を獲得し、名古屋市立大学の、分野を超えた連携力をアピールすることで、本学のプレゼンスを示してゆきたいと思います。引き続きご指導をお願いするとともに、コラボレーションのお声掛けをお待ちしております。



岩田 欧介 准教授

## 若手期待の星★

### 科研費 若手研究 採択者の皆さん 57名

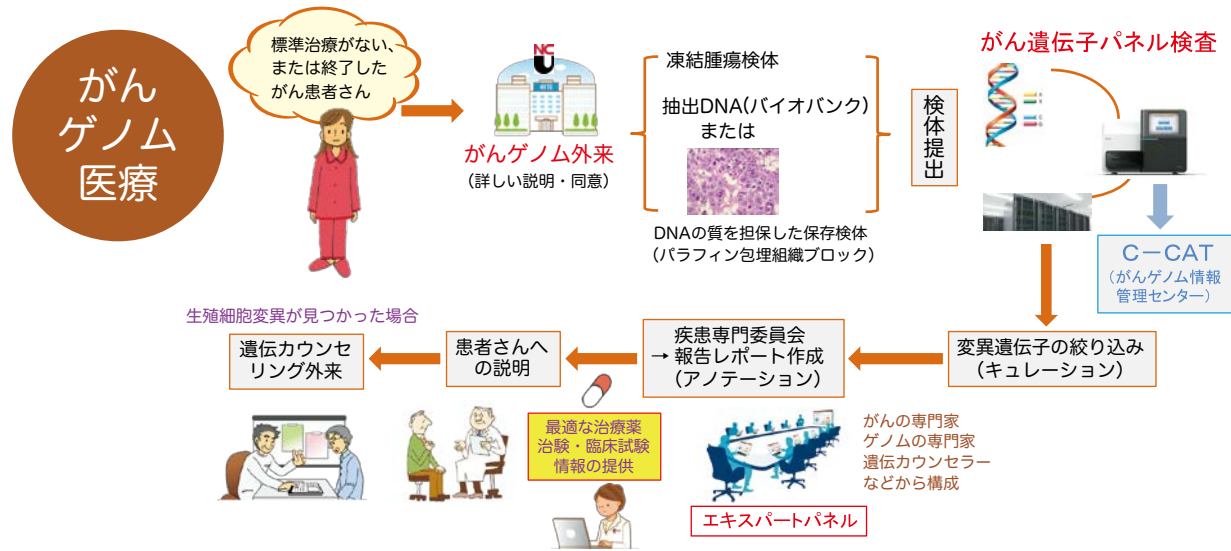
相羽 久輝	カクテイテイ	杉山 洋介	中嶋 晃一郎	藤幡 士郎
青山 幸平	加藤 明子	鈴木 健人	中田 礼	船田 哲
荒井 信行	加藤 耕治	鈴木 智貴	中森 裕之	松木 太郎
井汲 今日子	加藤 大貴	高木 大輔	西本 真弓	三浦 陽子
池森 宇泰	加藤 寛之	竹内 聡志	西山 裕乃	水口 建
市川 紘	金光 禎寛	武長 徹也	野村 孝泰	宮本 大模
今井 理紗	河島 圭吾	竹本 直樹	橋本 寛	森 賢人
上本 康明	川瀬 恒哉	立松 勉	長谷川 達也	山田 健司
浦木 隆太	小島 龍司	玉田 葉月	早川 俊輔	渡邊 美貴
浦野 みずぎ	坂根 理司	坪井 謙	林 佐奈衣	
小川 正樹	坂本 祐真	寺田 満雄	平原 修一郎	(五十音順・敬称略)
尾関 貴紀	澤田 祐季	永井 隆	福光 研介	

### がんゲノム医療について

「がんゲノム医療(プレジジョン・メディシン)」とは、患者さん一人ひとりのがんの原因を明らかにし、より適した治療薬を選択する次世代のがん治療です。異なるがん種でも同じ遺伝子に変異がある場合や、同じ分子標的療法薬が有効な場合があることが最近わかってきました。このような状況のなか、患者さんのがんに関する遺伝子を1回の検査で網羅的に解析し、がんに対する薬物療法の選択に役立てる「遺伝子パネル検査」として、「OncoGuide™ NCCオンコパネル システム」と「FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル」の2つが、現在、がんゲノムプロファイリング検査として保険収載されています。当院は厚生労働省より「がんゲノム医療連携病院」に選定され、2019年10月より、診療科の枠組みを超えた専門外来として「がんゲノム外来」を新たに開設しました。この外来では「がんゲノム医療」を希望される患者さん(上記の遺伝子パネル検査を希望される患者さん)を対象に、「がんゲノム医療」を提供しています。

「がんゲノム外来」は、現在では当院臨床腫瘍部が担当し、患者さんへの検査の詳細の説明とともに、遺伝子パネル検査が保険診療として該当するかを確認します。標準治療がないか終了した難治性固形がんの患者さんの中で、全身状態や臓器状態などから、遺伝子パネル検査の後にがん薬物療法の適応となる可能性が高いと判断される場合に保険診療の対象となります。採取から概ね3年以内であればパラフィン包埋保存検体を使って検査実施が可能です。現在、1か月に5~6件の検査依頼が出されています。遺伝子パネル検査は4~6週で結果が判明し、見つかった遺伝子変異に対して治験(臨床試験)も含めて有望な薬剤が利用できるかを当院では国立がん研究センター中央病院とウェブでエキスパートパネルを開催して検討しています。治験への参加のほか、遺伝性腫瘍の可能性が考えられる場合には遺伝カウンセリングを受けることも可能です。解析された遺伝子情報は、患者さんの同意を取得した上で、C-CAT(がんゲノム情報管理センター)に登録・管理され、ゲノム診断の質的向上や新薬開発に活用され、がん診療の飛躍的進歩が期待されています。

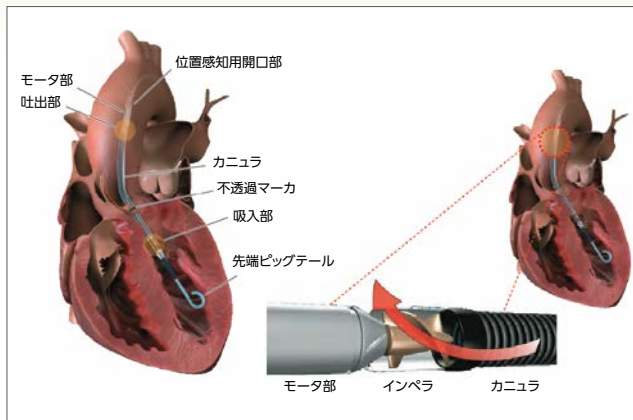
文責：乳腺外科学 教授 遠山 竜也、臨床腫瘍部 教授 小松 弘和



### インペラ (IMPELLA) 補助循環用ポンプカテーテルの導入

名古屋市立大学病院は、補助循環用ポンプカテーテルインペラ (IMPELLA) を導入いたしました。これにより、重症心不全の救命治療や重症冠動脈疾患の緊急カテーテル治療に先進的な治療体制を敷くことが可能になりました。インペラは、図に示すように左心室内へビッグテイル(豚のしっぽ)状のカテーテルを挿入し、図に示すモータによってポンプ(インペラ=羽根車)を駆動して、たとえ左心室の収縮力が非常に低下した状態であっても、左心室内の血液を大動脈に送血できる装置です。今まではこのような重症患者(心臓が止まりかかっているか、あるいは止まってしまった状態)に対しては、経皮的心肺補助装置(PCPSあるいはVA-ECMO)を使用してきましたが、今後はインペラを併用することで救命率が向上すると思われます。

文責：循環器内科学 教授 大手 信之



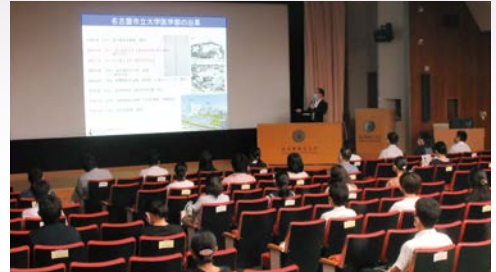
## “正しく恐れて”実施！ 夏のオープンキャンパス2020

COVID-19が愛知県で増加しつつあった8月5日(水)午前11時から1時間半、名市大医学部の夏のオープンキャンパスを実施しました。

〈生の情報を希望する熱意ある受験希望者の要望に答える〉べく、準備段階から以下の点を工夫しました。参加者の人数制限(さくら講堂で130名)、十分な3密回避での実施、参加者への事前感染対策の周知、座席指定制による感染発生時の事前対策、開催時間の短縮、実施後のYouTubeへの掲載、など、社会状況と学生ニーズを折衷した状況で実施することができました。また事後調査でも、開催後に発熱等の発症者はいませんでした。

例年は午前と午後の2回実施で600名強の参加者ですが、今年は少し寂しいオープンキャンパスとなりました。しかし、過度な不安で過剰萎縮する社会状況の中、医学の知識を持つ集団として、COVID-19を「正しく恐れ」過剰萎縮せず(参加者と発症率などの総合判断)、最低限に必要な社会活動を実践できる、ということを証明した良い機会となったのではないのでしょうか。

文責：副医学部長(入試担当) 飛田 秀樹



## 医学教育分野別評価に係わるFDを実施

FD(ファカルティ・ディベロップメント)の略で、「大学教員の教育能力を高めるための実践的方法」と説明されます。昨年10月の医学教育分野別評価でもFDの重要性を指摘いただきました。本年4月から3つのFDを企画していたものの、厳しい環境の中、すべて中止…。そこで7月末から、「診療参加型臨床実習」と「本学医学教育の問題点と改善」の2つのテーマをZoomで行いました。学部教員の他、臨床実習でご指導いただいている関連施設の先生方、看護師の方々も含めて、それぞれ148名、98名に参加いただきました。診療参加型臨床実習のあり方と問題点を共有して、より充実した医学教育へ繋がるものと確信しています。

文責：医療人育成推進センター運営委員会 委員長 安井 孝周

## 愛知県高校球児応援プロジェクト

名古屋市立大学整形外科では、夏の全国高校野球選手権(甲子園)大会中止に伴う愛知県予選の代替大会の開催の実現に向け、医局を挙げて支援することを表明しました。この支援を『愛知県高校球児応援プロジェクト』と名付け、7月4日から始まった代替大会を全面サポートしています。支援内容は2つです。

### 1. 全試合に医師を派遣

各球場に名市大および関連病院の整形外科医を少なくとも1名、無償で派遣します。

### 2. 医療用マスク1万枚、消毒液1千本の提供

大会に医療用マスクと消毒液を無償で提供し、十分な新型コロナウイルス感染症対策を行います。

大会に出場するのは182チームです。実は全都道府県中、一番試合数が多いのが愛知県です(東京は東西で大会が分かれていますので)。全球場の全試合に医師を1球場1名ずつ派遣すると、予備日を含めて延べ100名以上の医師の協力が必要です。幸いにも名市大整形外科の関連病院や同門のクリニックの先生方にご支援いただき、約60名の先生方がこのプロジェクトに参加してくださいました。1名につき1~2回、球場に1日常駐していただきます。週末の完全なボランティアですが、予想以上に多くの先生方にご賛同いただき、中にはもっと多く行かせて欲しいという要望もありました。本当にご協力いただきました先生方には心より感謝申し上げます。名市大整形外科医局員そして同門が一丸となって大会をサポートし、高校球児には安心してプレーに集中してもらい、コロナを吹き飛ばすような全力プレーを期待しています。また、このような支援の輪が野球だけでなく他のスポーツにも広がっていくと嬉しいです。



名市大整形外科から提供したマスクと消毒液

文責：整形外科学 教授 村上 英樹

## 事務室にアクリルパーティションが設置されました

医学部事務室(医学・病院管理部教育研究課)では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、未来の高度医療を担う医学生の育成の一助に…と、瑞穂区内に本社を構える名古屋ショーケース株式会社様より、アクリル製のパーティションのご寄附を頂きました。パーティションは、既製品ではなく事務室に設置するために採寸し、非常に透明度の高いアクリルで製作いただいたものです。学生及び大学院の受付窓口を設置しました。

名古屋ショーケース株式会社様にはこの場をお借りして改めてお礼申し上げます。今後も、徹底して新型コロナウイルス感染拡大防止に努めてまいります。



## ご寄附のお礼

名古屋市立大学病院における新型コロナウイルス感染症対策に対し、多くの企業、団体及び個人の皆さまより心温まるご寄附をいただきました。

職員一同、心より感謝するとともに、お礼申し上げます。今後もより一層の感染症対策に取り組んでまいります。

病院長 小椋 祐一郎

### 令和2年4月～8月のご寄附一覧

**4月**  
 フジッコ株式会社 様  
 一般社団法人 秀英会 様  
 株式会社ENEOSウイング 様  
 株式会社サンゲツ 様  
 株式会社亀屋芳広 様  
 株式会社武ホールディングス 様  
 東朋テクノロジー株式会社 様  
 ウシオ電機株式会社 様  
 特定非営利活動法人ジャパンハート 様  
 RATION JAPAN株式会社 様  
**5月**  
 日本関西台商協会 様  
 高雄市醫師公会 様  
 社会福祉法人 紫水会 様  
 大阪台湾同郷会 様  
 シーシーエスコヒー株式会社 様

株式会社タナカ 様  
 マウンテンコーヒー株式会社 様  
 株式会社武ホールディングス 様  
 株式会社豊田自動織機 様  
 日本空調システム株式会社 様  
 水谷クリニック 様  
 名古屋市上下水道局 様  
 スターバックスコーヒージャパン株式会社 様  
 株式会社丸菱製作所 様  
 東洋羽毛東海販売株式会社 様  
 パーク動物病院 様  
 株式会社金蝶堂 様  
 一般社団法人 愛知県病院協会 様  
 名古屋ショーケース株式会社 様

Bar Rowdy's 様  
 株式会社オートプティックマルキ 様  
**6月**  
 愛知中パナソニックショッブ会 様  
 Kannon Wedding 様  
 たまえ保育園 様  
 壬辰化学株式会社 様  
 リケンテクノス株式会社 様  
 学校法人医学アカデミー 様  
 中華人民共和国駐名古屋総領事館 様  
 ベストリンクインターナショナル株式会社 様  
 銀座に志かわ 様  
 名古屋商工会議所 様  
 名古屋華僑総会 様

VTホールディングス株式会社 様  
 株式会社アメーバホールディングス 様  
**7月**  
 株式会社UACJ 様  
 尾池工業株式会社 様  
 株式会社デイリーテクノ 様  
 株式会社ドコモECS東海 様  
 Lico HAIR&RELAXATION 様  
**8月**  
 キョーイクホールディングス株式会社 様  
 株式会社豊田自動織機 様  
 株式会社佐野塗工店 様  
 東朋テクノロジー株式会社 様

上記のほか、法人1社、19名の個人のみなさまよりいただいたご寄附など、令和2年4月から8月末までに合計73件のご厚意をいただきました。  
 重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。



## 「明るい未来へ、七色の架け橋 ～名市大の果てしなき挑戦～」 開学70周年記念事業のご案内

名古屋市立大学では、開学70周年を機に、開学100周年を見据え、学生会館のリニューアルや各キャンパスにおける施設整備のほか、記念式典や記念誌の編さん等の記念事業を実施することといたしました。

本学のさらなる発展のため、皆様からの温かいご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

### 【寄附金についてのお問い合わせ先】

事務局総務課 Tel:052-853-8005  
 受付時間:月曜日から金曜日の午前9時から午後5時まで

### 【開学70周年記念事業】

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/about/profile/memorial/70h.html>



広報誌：瑞 医(ずい)  
 発行：〒467-8602  
 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地  
 TEL(052)858-7114 FAX(052)851-4801

**URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>**

※次号の発行は2021年1月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☒  
**我こそは  
 通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、E-Mail:hpkouhou@sec.nagoya-cu.ac.jp  
 医学・病院管理部経営課経営係 広報担当まで